

令和 5 年 6 月 7 日現在

機関番号：32686  
 研究種目：基盤研究(C)（一般）  
 研究期間：2018～2022  
 課題番号：18K00463  
 研究課題名（和文）活版印刷後の写本 メンテリン聖書筆写本における音韻変化表記を手がかりとして

研究課題名（英文）Handwriting of Printed Mentelin-Bible 1466

## 研究代表者

井出 万秀（IDE, MANSHU）

立教大学・文学部・教授

研究者番号：10232422

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：1466年に印刷出版された、ドイツ語で初めての新旧約完全翻訳聖書である、いわゆる「メンテリン」聖書から手書きで書き写された8つの手書き写本について、旧約聖書の創世記をデジタル転記し、手書き写本を分析したことからわかったことは、手書き写本は、基本的には方言表記に「戻されている」ということである。メンテリン聖書は母音表記において、現代ドイツ語の形である初期新高ドイツ語二重母音化と初期新高ドイツ語単長母音化で表記されているが、手書き写本では中世ドイツ語の古い形に戻されているが、内容的には原本の活版印刷聖書を同じである。唯一例外はニュルンベルク写本である。

## 研究成果の学術的意義や社会的意義

従来、活版印刷は即手書き写本にとってかわったと従来は思われていたが、実はそうではなく新たな役割分担が形成されたことを突き止めた意義は大きい。文化史研究の一般論として、このような「メディア転換」が文化的営みにどのような変革をもたらしたかは更に詳細に研究される必要がある。具体的には、写本伝承された文献のどれが活版印刷になり、どれがならないか、活版印刷文献では、写本伝承文献とどのような違いが出てくるか、という新たな研究課題である。これは昨今のデジタル化メディア転換と従来からの伝承文献との関係にも該当し、ゲームソフトに中世騎士物語などが普及している現象にも通ずる。

研究成果の概要（英文）：The most important result of this research is the finding fact that the printing technology take place of hand-writing not immediatly, but the each media has his new domain: The hand-writing is for regional dialects, printing for the whole market. This kind of medial change makes much more detailed researchs necessary like: which kinds of texts are for hand-writing and wether the printed texts are different than the hand-writing texts.

研究分野：ドイツ文学，文献学

キーワード：写本 活版印刷 メディア転換 方言 イラスト 文学伝承

1. 研究開始当初の背景

ハイデルベルク大学図書館の写本 cpg 16, 17, 18 のテキストを大学院の授業で転記する中で、この3つの写本が1466年にドイツで初めての新旧約聖書の完全ドイツ語翻訳版であり、かつドイツ語で初めて活版印刷出版された、いわゆる「メンテリオン聖書」の手書き写本であることがわかった。このハイデルベルク写本以外にも合計8件、メンテリオン聖書から手書き写本があることが判明し、活版印刷の時代になぜ活版印刷から手書き写本が作製されたのかの理由を探ることが研究の始まりであった。

2. 研究の目的

研究の目的は活版印刷の時代になぜ手書き写本が作製されたのかの理由を探ることであるが、出版コストなどの経済的要因を突き止めることは非常に困難であるため、手書き写本の構成や装丁など、写本自体から推測できる側面に特化した。

3. 研究の方法

メンテリオン聖書の手書き写本がデジタル化されてオンラインアクセスできる場合にはデジタルデータをダウンロードし、そうでない場合は写本を有する図書館からデジタルデータをCDやUSBメモリーなどの形で送付してもらった。2018年研究は開始した当初、デジタル化されて公開されていなかったため、ハイデルベルクス大学図書館、ミュンヘン国立図書館、ベルリン国立図書館、パーゼル大学図書館、アウグスト公ヴォルフエンビュッテル図書館、ニュルンベルク市立図書館より該当する写本のデジタルデータを入手した。ディリンゲン市の寄進教会図書館のデータについては、同図書館にデジタル化する技術とスタッフがいないことからデータを入手することが不可能であった。

入手できたデータについては、旧約聖書の創世記について、すべての写本を転記・文字データ化した。この転記作業にかなりの時間を割かれた。現在はインスブルック大学の研究チームが製作したOCRソフト「Transkribus」を利用することで程度自動的に手書き文書を電子データ化することが可能であるが、判読が100%確実ではないため、人間の目によるチェックは欠かせない。このOCRソフトも研究開始当初はデータの不足で判読率が必ずしも高くなかったが、現在では15世紀の手書き文書の読み取りデータを提供する研究者も増え、判読率も上昇しつつある。

4. 研究成果

(1) 地域方言密着型の手書き写本

電子化されたデータのもとで言語的分析を行った結果、手書き写本は地域密着型でそれぞれの地域の方言で表記されていることが明確となった。つまり、メンテリオン聖書は、印刷された地域が西上部ドイツ語地域に位置するシュトラースブルクであり、方言（話ことば）では中世ドイツ語までの古い二重母音と長短母音が今でも残っているのに対し、印刷本は現代ドイツ語と同様、初期新高ドイツ語二重母音化および初期新高ドイツ語単長母音化を経た新しい母音が表記され、いわば超地域的表記がなされているのに対し、手書き写本は、現代ドイツ語と同じ母音表記がなされているニュルンベルク写本を除き、すべてそれがかけられた地域の方言（話ことば）に用いられている中高ドイツ語の母音での表記がなされている、ということが判明した。このことから、活版印刷時代の手書き写本は、地域方言密着型の表記、という位置づけが推定される。

(2) ヴィジュアル化

もう一点、手書き写本に目立つ点は、イラストである。ハイデルベルク写本、ミュンヘン写本、ヴォルフエンビュッテル写本には挿絵が描かれている。中でもハイデルベルク写本の挿絵はページ全体に大きく絵がかかれ、またその枚数も多く、いわば「挿絵入り聖書」とも言える。ハイデルベルク写本は旧約聖書のみしか書き写していないが、ドイツ語における挿絵聖書の最初の聖書と言えることができる。ミュンヘン写本、ヴォルフエンビュッテル写本の挿絵はページあたり2コラムのうちの1コラムのどこかに挿入される小さなものである。

(3) 活版印刷聖書の標準モデル

挿絵と聖書という意味では、この手書き写本は重要な意味を持っているように思われ、今後のより詳細な研究が待たれる。というのも、手書き写本の挿絵という構成が活版印刷聖書に継承されたことを意味するからである。ドイツ語では、1534年のルター訳完全聖書以前に13件活版印刷聖書が残されている。活版印刷聖書最初のメンテリオン聖書（1466年）を別とすれば、すべての活版印刷聖書には挿絵が挿入されている

からである。もちろんルター訳聖書も挿絵入りである。

#### (4) 挿絵文化

もう一点、挿絵との関係で注目すべき点は、そもそも絵画および彫刻でキリスト教のイコノグラフィーが普及し、特定の芸術家などが名前を残すようになるのは15世紀になってからである。それ以前の絵画・彫刻は実はそれほど多く残っているわけではない。もちろん君主が作製させた福音書（ラテン語）写本の挿絵や装丁は13世紀にも存在する。しかし美術館などに展示されているような、絵画（祭壇画など）、彫刻などの作品の大多数は15世紀に由来する。このような宗教のヴィジュアル化に聖書の挿絵も位置づけられる必要がある。15世紀、写本工房や印刷工房で作製された聖書は俗に *biblia pauperum*（貧民聖書）いわれるが、決して「貧民」に手の届くような安物ではない。おそらく19世紀、教養市民階級が、テキストに挿絵があることは教養ある市民に相応しくなく、識字に乏しい社会階層の特性であると捉えられていたことに関するのではないかとおもわれる。そもそもテキストに挿絵が多量に挿入されるようになるのは15世紀になってからである。これは一般民衆の識字率の上昇とも関連するであろう。都市では15世紀、識字率は人口の30%程度に達したとも推測されている。書籍への挿絵はこれまであまり研究されていないが、今後、挿絵についての体系的な研究が望まれる。手書き写本や揺籃期活版印刷本がデジタル化・オンライン化されることによりアクセスが容易になったのはつい最近のことである。このような研究インフラの発展にともない、これまでに不可能であった研究やテーマ設定が可能になる。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 5件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Manshu Ide	4. 巻 1
2. 論文標題 31.Logisch-semantiche Operation und deren Form - anhand der Ko- und Subordination	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Form, Struktur und Bedeutung. Festschrift fuer Akio Ogawa.	6. 最初と最後の頁 411-418
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Manshu Ide	4. 巻 157
2. 論文標題 30.Macht der Analogie - ihr Potenzial und ihre Grenze. Was dem substantivierten Partizip zur Lexikonreife verhilft	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Neue Beitrage zur Germanistik	6. 最初と最後の頁 124-138
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11282/jgg.157.0_124	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 井出万秀	4. 巻 1
2. 論文標題 ドイツ語書きことばの標準化の進展とルター	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ドイツ語と向き合う（シリーズドイツ語が拓く地平2）	6. 最初と最後の頁 147-166
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Manshu Ide	4. 巻 1
2. 論文標題 Die Biblische Ikonographie in den vorlutherischen Abschriften und Drucken	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Festschrift fuer Laura Auteri	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Manshu Ide	4. 巻 165
2. 論文標題 "Neue Reformation der Stadt Nuernberg" (1479/1484) als Vorlaeuffer des Nominalisierungsstils	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Neue Beitraege zur Germanistik	6. 最初と最後の頁 215-230
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11282/jgg.165.0_215	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Manshu Ide	4. 巻 1
2. 論文標題 Maennliche Archetypen in der deutschen und japanischen Literatur des Mittelalters und der Fruehen Neuzeit ODER vom Haudegen zum Weichei	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Gemeinsame Herausforderungen. Ein aktueller Blick auf den deutsch-japanischen Wissenschaftsaustausch anhand von Beitraegen aus den Ringvorlesungen 2021 und 2022	6. 最初と最後の頁 144-153
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計4件

1. 著者名 Arianna Di Bella, Natascia Barrale, Sabine Hoffmann und Marion Weerning	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Peter Lang	5. 総ページ数 200
3. 書名 Menschen und Handeln im Zeichen transkulturellen Denkens	

1. 著者名 Manshu Ide, Haruyo Yoshida, Shizue Hayashi	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Stauffenburg	5. 総ページ数 337
3. 書名 Wissen ueber Wissenschaft. Felder - Formation - Mutation	

1. 著者名 井出万秀	4. 発行年 2023年
2. 出版社 郁文堂	5. 総ページ数 400
3. 書名 中世ドイツ文学史	

1. 著者名 Manshu Ide	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Stauffenburg	5. 総ページ数 400
3. 書名 Herausbildung des Nominalisierungsstils in der Neuen Reformation der Stadt Nuernberg (1484). Stilistisch-funktionale Entscheidung als Faktor zum Spachwandel.	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------